

2012 年 9 月 5 日 (水)

## InDesign・DTP初心者のために——DTP・InDesign5 において-0

2 年前に書いた文章だが、本ブログの「InDesignCS5」検索で以下の項目に、たびたび初心者のDTP・WEBデザイナー、編集者が立ち寄ってくるので、ここに再録しておく。

いい情報提供になることを期待して。

[脚注\(数字\)の付け方の発見——DTP・InDesign5 において-1](#)

[「句読点の半角モノ」・禁則処理——DTP・InDesign5 において-2](#)

[くの字点\(くの2字分\)の発見——DTP・InDesign5 において-3](#)

[背幅と表紙づくりの寸法のとり方——DTP・InDesign5 において-4](#)

[クエスチョンマーク\(?\)とビックリマーク\(!\)の合体記号\(!?\)の読み方——DTP・InDesignCS5 において-5](#)

[○\(まる\)の中に文字をどう入れたらいいのか——DTP・InDesignCS5 において-6](#)

[脚注・ルビ\(数字\)をショートカットで——DTP・InDesign5 において-7](#)

### ◇ InDesign と格闘

これまで、DTP (本や雑誌、タブロイド判の新聞などの編集に際して、割付などの作業をコンピュータ上で行う) は、MACで行ってきた。私だけでなくほとんどみんなはそうだったのではないか。

それも10年前のMAC (OS 9. 2) でQuarkXPress (クォーク・エクスプレス) のバージョン4. 2だ。

私は事務所を手放してから、逆に本格的にDTPの勉強をしてきた。

DTPはQuarkXPressとPhotoshop、Illustrator 9. 0の3つのアプリケーションを使いこなさないとできないので、解説本を図書館から借り出し、学び、これまでいくつかの仕事をすすめてきた。

とにかく90年代から、デザイナーの仕事は、この「3種の神器」が主流で、ほかのソフトは見向きもされていなかった。

ビールの世界は、「キリンビール」から「アサヒビール」にTOPメーカーが移ったが、デザイナーの仕事に、WINDOWS版登場するなど、ありえないことだった。

数年前からDTPの主流がINDESIGN (MAC版もあるが、WINDOWS版が主流)、に移ってきたのは、DTPに関するインターネット上での議論からは分かっていたが、「ノーマネーの状態ではいかんともしがたいな一」と、思っていた。

ところが、『さいたま高齢協』の印刷をやっている双信舎印刷 (さいたま市) のT女史から、「WINDOWS版のINDESIGN」に替えてほしいという、強い申し出があり、やむなく大枚〇万円をはたいて、買った (後に、さいたま高齢協のTさんが「高齢協の仕事のため」ということで払っていただいた) 。

とくに5月末 (2010年) にINDESIGN CS5が発売されるのが分かっていたので。

◇ぜんぜんわからなかった

このINDESIGNは、「QuarkXPressを使っていればすぐにわかりますよ」 (T女史) という甘い言葉に誘われて、チャレンジしたが、さっぱりわからない。

とにかく使う言葉がぜんぜん違い、なにがなんなのかわからないまま出発した。

購入した解説本・『InDesign CS4 速習デザイン レッスン&レツトライ形式で基本が身につく』（技術評論社）を読んで前学習に励んだが、やってないから覚えた端からすぐに分からなくなっていった。

「歳にはかてないな」とため息をつく。

実際、インストロールを終えて、すこし触ってみた。最初は全然ダメだった。

あきらめかけたときに、Indesign/インデザイン使い方講座や「InDesignの勉強部屋」を発見して、再チャレンジした。

文字入力はわかったが、どのようにつづけるのかわからない。

文字を次の囲みにおくる（リンクする）→Ctrlを押さえて、画面上の本文末の赤いカコミをクリック→マウスの先に本文が浮かぶので次の段に持っていき、クリックすると一段分できる。

「画像」の挿入は、どうやるなか？（本を読んでいたもので、ファイルはPDFやEPSでよい）→フレーム（グラフィックフレームでもブレンテキストフレームでも長方形フレームのどれでもよい）を作る→ファイルから→「配置」（変なネーミングだ）

「配置」したらサイズが大幅に大きい→バーの3つ目。「100%」（上段を25%縮小する）→まだ大きい場合は、同じ作業をする。

「画像の配置」を終えたら、本文が下に入ったまま（これは困ったが）ツールバーの「境界線ボックスで周りをかこむ」をクリック（本文に画像が入った）。

ツールボックスはどこに？→（再起動したら消えてしまった）。→ ウィンドウにあった。

ページの拡大→これはMACのときと同じでツールの中の「手マーク」をクリックして本ページ上で当該箇所へ。→ツールの中の拡大鏡マークをクリック→本文の当該箇所でクリック→拡大。

さてこのページを縮小する（これがなかなか分からなかった）→拡大鏡をクリックして、本文中でA l t を押しながらクリック→縮小。

#### ◇フォントがちがう！

これまでつくってきたMACのファイルをI N D E S I G Nで開く→フォントがないこと、リンクが切れていることの警告→Windows内のフォントで置き換え→いつも小塚フォントが指示される（これはなんなのだろう、という疑問があった。これは後述）。

双信舎さんも面倒だから「やっぱり替えてよ」と言ったんだなとしばし納得。

だいぶ分かってきたので、印刷所の双信舎へ出向いて、入稿の仕方を質問。

1 小塚フォントとはなにか→それは印刷ではつかえない→モリサワ書体がダイナフォントを使ってほしい（え！）

「こちらからダイナフォント集を貸すのでこれを使用してほしい」、とDVDを渡された。

帰ってインターネットで調べたらモリサワ書体を使う場合、年間使用契約・5万円もする。

そのほかに、「モリサワ基本7書体」というパッケージが売られているのを発見。→定価4万8000円→インターネット上で検索して2万5000円で購入。

しかしMACのとき、本文で使っていた「リュウーミンM—KL」がない。

再度、調べたら「Select Pack」（モリサワフォントのラインナップの中からライセンス数に応じて使いたい書体が自由にセレクトできる）があり、これで購入（2万1500円）。

2 PDFで入稿する（PDFで書き出しプリセットをクリックすると[PDF/x-1a.2001（日本）]から[PDF/x-4.2008（日本）]。→前者で入稿。

3 MACの本体レイアウトを使って入稿→OK。

2011年9月13日（火）

## 脚注(数字)の付け方の発見——DTP・InDesign5 において-1

最近、DTPの仕事をやっている。〇〇歳の手習いではあるが、もしあのときに覚えていればという反省をしながら。

この間の奮闘については、「[編集者の飛碟](#)」（10/07/08、InDesignCS5〈Adobe〉DTPソフトを学ぶ）に書いておいたが、今回は本格的な本づくりだ。なんと数字の脚注をつけることの発見でバタバタ・困難に陥った。

解説テキストの『演習デザイン InDesignCS4』（技術評論社、2010年1月）をもっぱら参考にしたが、索引を見たら「脚注」の項目がない。それではもしかして「ルビ」から入るのか、調べたら書いてない。

さて困った。

いつも勉強しているインターネット上の「[InDesignの勉強室](#)」で「脚注」を検索してみた。そうすると《2005-07-18（月）付け：CS2では、脚注の機能が追加されました。適用方法も、テキストを選択し、書式メニューから〔脚注を挿入〕を選択するだけと簡単です》と書かれているが、図と日本語を読むだけではわからない。

それでは今は「ルビ」＝「脚注」（活版の時代に仕事を始めた世代なので、私は別物と理解していた）なのではないかと判断して、InDesign CS5 の「ルビをつけるページ」をさわり始めた。



本文に反転表示マーク→文字（ページ、レイヤーなどの項目表示の下段にある）→項目表示（文字パレットの右、▼≡←4本線）をクリック→ルビ表示→ルビ位置と表示をチェック→ルビ（R）に全角ひらがな入力のまま（1）とする（半角で（1）で入力すると90度右回りになる）。

次に「種類」で“グループルビ”（最初の表示は“モノルビ”）を選択し、「揃え」は“右肩つき”（最初の表示は1-2-1（JIS）ルール）を選択。そして「位置」は、最初の表示のまま“上/右”を選択し、[OK]をチェック。これで縦組みの中に「数字脚注」は付く。

インターネット上の「DTPページ」を探したりしていたので、この発見に5時間ほど休み休みかかった。

次は数字脚注の二桁だ。

「ルビの位置と間隔」の下に「ルビのフォントとサイズ」がある。それをチェックすると「フォント」「サイズ」「水平比率」「垂直比率」、そして「組数字」の変更可能な数字の「0」桁を「2」桁にしてみた。

なおかつ上記の最初の「ルビ（R）に全角ひらがな入力のまま（1）とする」を半角数字の「（10）」（カッコは全角モノ）でやってみた。見事、クリアした。

学術書などのDTP（ここではInDesignだが）には、特有な決まりがあるはずだが、その初歩的な「数字の脚注を付ける」が、解説テキストやインターネット上で探しにくいので、後輩のためにUPする。

▽12.08.29 追記

本ブログで検索が多いので、これを読んだ「InDesignのテキスト編集者」は、是非、解説を入れてほしい。

2011年9月21日（水）

## 「句読点の半角モノ」・禁則処理——DTP・InDesign5において—2

大先輩の編集・校正者と組んで、四六判で240ページほどの本のDTPをすすめている。ご本人の仕事歴は、50年近い。なおかつ活版時代からの専門家。

今回の指示は、組版で本文中にたまにある「半角の句読点を全角モノにすること」、という注文。

20年ほど前から若い世代のデザイナーたちと仕事をやってきたが、月刊誌を作っている時、全ページの句読点を半角ものでゲラを出してきたことがあり、直してもらったことがある。

彼らはM A Cの Adobe Illustrator や Quark で「コンピュータ関係のムック本」や「自動車関係」の若者向けの仕事を中心にやっていた。

こちらの指摘について、最初は「ポカーンと、全角モノになおすんですか」と顔をしていた。とにかく「ツメ打ち」がはやっていた時代だから。「おじさんに従うか」という感じだった。

今回は、「禁則処理」がされているんだということがすぐに分かったが、どうしたらいいのか模索した。

解説テキストの『演習デザイン InDesign C S 4』（技術評論社、2010年1月）の索引の「禁則処理」を見つけた。しかし読んでも、こちらのクエスチオンの解は書いていない。

「ニーズに応じて書いてほしいな」と不満が出てきたが、「段落」から入ることが分かった。

これがわかったので、以下のように「本文中の句読点の半角モノを全角モノ」へ変更できた。

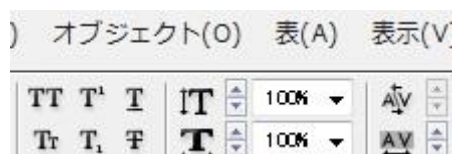
本文中に句読点が半角になった場合→「半角前後を黒に反転して」→「書式」をクリック→「段落」をチェック→下段の方に「禁則処理」があり→「マドの“強い禁則処理”」をクリックすると「禁則を使用しない」をクリック→本文中は全角になる。

#### 追記

ページ内で処理する方法がある。

本文中に二分になった句読点（。・、）の1行を反転して、ページTOPにある、上の縦「T」の100パーセントを拡大して、追い出す。

1行ですまない場合があるから複数行、100パーセントを拡大する。





2011 年 9 月 30 日 (金)

## くの字点(くの2字分)の発見——DTP・InDesign5において—3

平仮名の「く」の字を延ばしたように書き、2 字以上の仮名、もしくは漢字と仮名を繰り返す、これは昔の本に使われ、私たちは編集上、基本的に使わないこととしていた。

しかし今回は学術書の DTP 作業の引用文で、『内地雑居後之日本』（1899 年、明治 32 年刊）の本文にある。

さてなんと読むのか、これも分からなかった。そこで昔、「々」を勉強したことがあり、検索してみたら、本文近くに「踊り字」の表記があり、そしてその中に、それは「くの字点」と読むことがわかり、さらに「Unicode」の「U+3033」、「U+3035」だとわかった。

大昔、活字の現場に何回も入っていたが、文選労働者はすばらしことをスイスイとこなしていたんだなと思った次第。

### くの字点(くのじてん)

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

記号	<a href="#">Unicode</a>	<a href="#">JIS X 0213</a>	<a href="#">文字参照</a>	名称

/	U+3033	1-2-19	&#x3033; &#12339;	くの字点上
\	U+3035	1-2-21	&#x3035; &#12341	くの字点下

2011 年 10 月 10 日 (月)

## 背幅と表紙づくりの寸法のとおり方——DTP・InDesign5に おいて—4

四六判で240ページほどの本の表紙をつくるのに、背幅の取り方と寸法のとおり方を忘れていた。

前はA5判、140ページのモノを作った。ページで見ると、Aマスターが横幅の長い長方形が2枚ある。「え。どうして」と錯乱。

そうか、本の横寸×2プラス背幅で行くのではないかと、ハタと思いだした。

そこで InDesign では「新規作成」→「ドキュメント」をクリック→「ページサイズ」で一番、下の方に「カスタムページサイズ」がある→四六判なので  $128\text{mm} \times 2 = 256\text{mm}$  に背幅の  $15\text{mm}$  をプラス =  $271\text{mm}$ 、天地は  $188\text{mm}$  で指定。

見事、DTPでの表紙づくりの入り口が完成。

今回も迷った時、インターネット上で分かるページがなかなか発見できなかった。

前回は、印刷所に電話して、一発で「カスタムページサイズでつくるのよ」、とS信舎印刷のT女史から教わったのを思い出しながら。

初級DTP者の解決篇から。

2011年10月14日(金)

## クエスチョンマーク(?)とビックリマーク(!)の合体記号(!?)の読み方——DTP・InDesignCS5において——5

本当に活字の世界で飯を食っていたのかどうか、本人が呆然とすることがあった。

それは、DTPの校正が上がってきて、“?! ”があり、このマークの読み方は何というのだろうかということ。

一記号では“?”はクエスチョンマーク、“!”はエクスクラメーションマークだ。

そこで、「特殊記号の読み方」のページを探してみたら、「記号/符号の種類・名称・読み方・約物(やくもの)など」一覧([みんなの知識——みんなの便利帳](#))があり、「!? ——感嘆疑問符、ダブルだれ、感嘆修辭疑問符、両だれ、耳しずく」、「!! ——二重感嘆符」と読む、という。

出版界に長く居て、「両だれ」というのを、大昔に聞いた覚えがあるが覚えていなかった。

活字の時代に「おっかない文選のおやじさん」に教わっておけばよかった。

さて、パソコンではどのように入力したらいいのか？

IME パッドをクリックしてみた。

↓

「Unicode（基本多言語面）」をクリックして順次、下の方を探した（少し時間がかかったが）。

↓

「一般句読点」の中に、あった。「へー、句読点!?!」

↓

U+2040 に?! ?!

2012 年 1 月 21 日（土）

## ○(まる)の中に文字をどう入れたらいいのか——DTP・InDesignCS5において—6

DTP 作業の中で、また分からないことが出てきた。

1970 年代の植字現場（活版印刷で、拾った活字を、原稿に指定してある体裁に並べて組むこと。それも版を逆さまに置いて組む）では、活字がない記号やロゴなど、信じられないだろうが、一本ずつ木造で作っていたことがあった。

今回は、大企業の労務管理の文書だが、かれらは、やや乱暴に「敵対的相手」に対しては(共)などを使って表現することがある。内部文書なので、イメージをつくるのにちょうどいいのかもしれない。

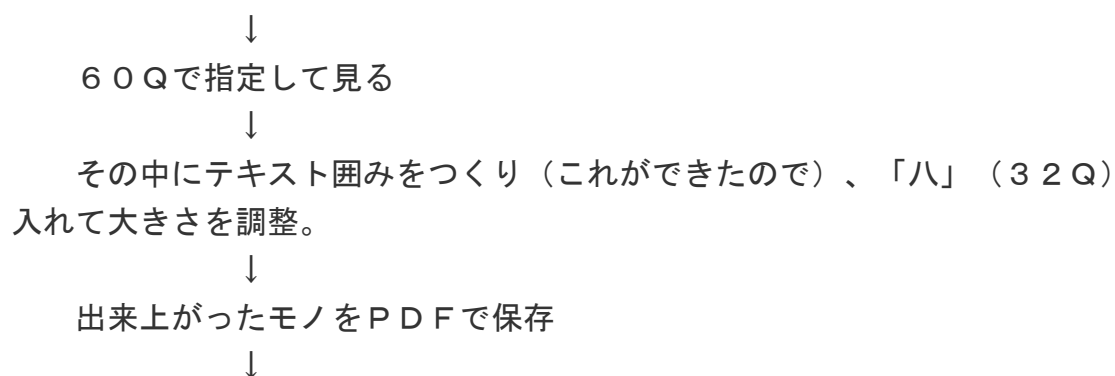
以前、Word では「外字エディター」を使って作ったことがあるが、チャレンジしてみた。

さて、Adobe InDesign CS5 では、○の中に文字を入れるのは、どのようにつくるのだろうか。インターネット上の解説を読むと難しいので、自分で考えてみた。

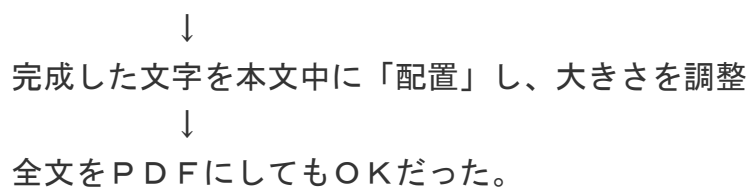
まずは InDesign を立ち上げ、A4 サイズを選択

↓

テキスト囲みで「まる」と入力し、「○」を選択



Adobe Photoshop Elements 9で「PDF」を開き、○囲みを均等にカット



2012年8月29日（水）

## 脚注・ルビ（数字）をショートカットで——DTP・InDesign5 において-7

久しぶりに脚注の数字が一杯入った学术论文のDTP作業を進めたが、大変だった。ページの作り方は、「脚注（数字）の付け方の発見——DTP・InDesign5において-1」に書いておいたので、着々と進んだ。

<http://okina1.cocolog-nifty.com/blog/2011/09/indesign-5d95.html>

ただし、40 ページほどのなかに、50 を超えているので、上記のメモをプリントアウトして見ながら行ったが、大変な手間がかかった。

しかし、「ルビ」の表示の下に、「Ctrl+Alt+R」と表示されていた。「本文の入れたい文字」を反転させ、このショートカットキーを使うと、なんと簡単だった。

上記のページを読んだ方におすすめ。

ショートカットキーは「MS-DOS時代」は、便利に使っていたが（今でも「Ctrl+C」、「Ctrl+A」、「Ctrl+V」は使う）、いまはマウス全盛時代だ。

しかし、視覚障がい者のための「音声パソコン」のボランティアに行くと、実はショートカットのみで進んでいくのにはびっくりした。

たとえば「Alt+F」でメニューのTOPへとか、「Alt+F4」でメニューの終了とか、いろいろ。

ショートカットではないが、あるアプリケーションでは、「Tab」でカーソルを移動していく。

ぜひ、あなたも「音声パソコンのボランティア」になってほしい。